

# 「世界に向けて核の廃絶を」

ラームス住地

## 「平和資料館」が完成

### 第3期工事に30万レアルの援助も

「世界に向けて核の廃絶を呼びかけていきたい」。サンタカタリーナ(S.C.)州フレイ・ロジェリオ市(イボネッテ・フェリス)ノ市長と、同市管内にあるラームス移住地の「被爆者の子孫の会」(小川和己代表)共催の「平和資料館」落成式が14日午後4時から同移住地で開催され、小川代表は冒頭の言葉を強調した。この日の落成式には、同州・市および移住地関係者をはじめ、國方俊男在ブラジル日本大使館公使や齊藤準一空軍司令官も姿を見せ、約350人が出席した。移住地から平和運動の大切さを発信するとともに、同地域の発展にもつなげていく考えた。

小川代表によると同資料館は、2002年に完成した「平和の鐘公園」事約9か月間で完成した。

資料館の総工費は50万レアルで、そのうち30万レアルが連邦貯蓄銀行から援助され、同市からの支援もあったという。資料館の面積は420平方メートル(42メートル×10メートル)。館内では、この日のために長崎県から贈られた原爆写真パネル約80枚が展示され、出席した人々は原爆の恐ろしさを改めて感じている様子。

式典には、フェリス市の市長、齊藤司令官、國方公使、佐藤宗一クリチーバ総領事、アミン元S.C.州知夫妻、クラウジオ・ヴィニャッチ連邦下議らが来賓として出席し、典を前に高台にある「平和の鐘公園」で小川代表をはじめ、来賓者たちが平和への願いを込めて、代わる代わる鐘を鳴らした。



式典会場に揃った来賓たち(中央が小川代表)(写真は2枚とも山本ラームス日伯文協会長提供)



高台の「平和の鐘公園」に集まった人々

その後、高台下の「平和資料館」前の特設テント内に移動。式典に先立ち、フレイ・ロジェリオ市議会(岩崎秀樹市議会議長)から小川代表へ名誉市民章が授与された。

式典では来賓たちが祝辞を述べた後、小川代表があいさつ。ブラジルは核兵器が無く、平和な国であります。私は自分の原爆被爆者の体験から、世界に向けて軍縮ではない核の全面廃絶を呼びかけていきたい」と述べ、同移住地から平和運動を行っていく考えを示した。

同事業は、日本庭園や休憩所などの設置など、第3期工事も計画されており、12年に完成する予定。

小川代表は同事業について、「2002年に平和の鐘公園が完成してから10年をかけた構想で、今は『被爆者の子孫の会』を組織強化し、サンタカタリーナの有志を集めた『平和推進協会』として進めることができれば」と意気込みを見せた。



14日の平和資料館落成式には、ルーラ大統領からも祝辞が届き、ブラジル国内から世界平和への発信地として平和資料館が落成したことを大歓迎する「この内容のメッセージを受けた」と、被爆者の子孫の会(小川代表は「大統領からのメッセージを大きく引き

に見てもらったことが、この地域の発展にもつながり、私たちにとても本当に喜ばしいこと」と話していた。

シールソンタ連邦下議が同記念公園の第3期工事のために30万レアルを援助すると公表した。また、ヴィニャッチ下議もラームス移住地にあるゲートボール・コートの新築のために議員枠での分担金から13万3千レアルを資金調達することを発表。同移住地関係者を喜ばせた。